



豊臣兄弟関連イベント第1弾!!

第九回 近畿歴史
まちづくりサミット
in 和歌山

令和7年10月18日(土)

14時～16時30分(13時30分開場)

和歌山城ホール 2階小ホール

和歌山市七番丁25-1

主催／和歌山市・国土交通省近畿地方整備局

協力／一般社団法人 近畿建設協会

第9回 近畿歴史 まちづくりサミット in 和歌山

プログラム

一、開会挨拶 和歌山市副市長 犬塚 康司
国土交通省近畿地方整備局副局長 佐藤 忠晴

二、和歌祭の奉納芸能「唐舟・御船歌」 和歌祭保存会

三、基調講演
「豊臣兄弟とライバルたち ～織豊期の城とまちづくり～」
滋賀県立大学名誉教授 中井 均 氏

～ 休 憩 ～

四、パネルディスカッション(和歌山市・大津市・宇陀市)
「豊臣兄弟の城とまちづくりから、現代のまちづくりへ」
和歌山市副市長 犬塚 康司 大津市副市長 北澗 弘康 宇陀市長 金剛 一智

五、次回開催都市挨拶 大津市副市長 北澗 弘康

六、記念撮影

七、閉会



和歌祭の奉納芸能 ～芸能尽くしの風流の大祭～

和歌祭は、徳川家康を東照大権現として祀る紀州東照宮の例祭で、紀州藩初代藩主徳川頼宣が、紀州東照宮造営の翌年、元和8年(1622)に和歌の浦で開始しました。藩をあげての祭礼であった和歌祭の盛大な様子は『東照宮縁起絵巻』(正保3年(1646)完成)を始めとした様々な絵画に描かれました。

渡御行列は、神輿に伴う神幸行列(渡り物)と、様々な装束で芸能を奉納する練り物行列とで構成されています。練り物については、縮小や再興により入れ替りもありましたが、長刀振、母衣、連尺、唐船・御船歌、雑賀踊、餅搗踊、面掛、相撲取の8つの練り物が変質や復興を経ながら、練り物の中心として現在に引き継がれています。今回、披露される「唐舟・御船歌」は当初よりあった作り物(曳舟)の練り物で、太鼓や法螺貝も加わるにぎやかなものです。



滋賀県立大学名誉教授

中井 均 氏

基 調 講 演 豊臣兄弟とライバルたち ～織豊期の城とまちづくり～

豊臣秀長が築城した和歌山城と城下町を中心に、豊臣兄弟(秀吉(姫路城・大阪城など)、秀長(和歌山城、大和郡山城、秋山城(宇陀松山城)など))と明智光秀(坂本城)等のライバルが関わった近世の城と城下町の成り立ちについてお話いただきます。

1955年大阪府生まれ。龍谷大学文学部史学科卒業。
(財)滋賀県文化財保護協会、米原町・米原市教育委員会、長浜城歴史博物館館長を経て、2011年度に滋賀県立大学人間文化学部准教授。2013年度より同教授。2020年度退官。金沢大学、大阪大学などで非常勤講師も務める。専門は日本考古学で、特に中・近世城郭の考古学的研究、近世大名墓の考古学的研究。現在、滋賀県立大学名誉教授。

豊臣兄弟の城とまちづくりから、現代のまちづくりへ

豊臣兄弟が関わった城と城下町をもつ3市で、それぞれの歴史を踏まえて城と城下町を現代のまちづくりにどう生かしているのか、各都市の取組についてお話いただきます。

◆コーディネーター／中井 均 氏

◆パネリスト



和歌山市副市長 犬塚 康司



大津市副市長 北澗 弘康



宇陀市長 金剛 一智